

# 日本語学習者は自他動詞文をどのように受容するか ——母語話者との比較調査の試み——

望月雅美\*

本稿では、日本語学習者が有対自他動詞文をどのように読み分けているのか調べるために、母語話者と日本語学習者との比較調査を行った。

その結果、初級の文型と語彙を使用した会話文でありながら、母語話者と同じように読み分けている学習者(JLPTのN3レベル以上)は全体の3割に留まった。主語を省略した場合、母語話者は前後に特別な文脈がなければ他動詞文の動作主は話し手であると判断する傾向がある。しかし日本語学習者にはその傾向は見られなかった。自動詞文については、母語話者は過失の結果としてとらえる人が半数おり、中には第三者の行為の結果ととらえて責任追及する文も見られたのに対し、学習者は自然に起こった出来事の結果ととらえる文が多数を占めた。

これらの差異は、日本語の学習過程が影響している可能性がある。この研究結果は、自他動詞の意味に関する学習方法を再考し、自他動詞を産出ではなく受容から教える必要性など、今後の日本語教育の方向性に示唆を与えるものとなった。

キーワード：有対自他動詞、日本語教科書、ことばの産出と受容

## 1. はじめに

「窓ガ開ク/窓ヲ開ケル」のような有対自他動詞文<sup>1</sup>の使い分けは、日本語学習者が苦手とする学習項目の1つである。先行研究ではさまざまな原因追究がなされているが(守屋 1994, 中石 2005, 伊藤 2012a, 小林 1996, 他), その多くが日本語学習者の産出に焦点をあてたものであり、日本語学習者が自他動詞文をどう読み分けているのかという受容面の研究は管見の限り見当たらない。また、日本語教育現場において自他動詞がどのように扱われ、どのような学習が進められてきたか俯瞰する調査も見られない。

本稿は、日本語学習者の有対自他動詞の学習状況を調査するとともに、日本語学習者と日本語母語話者がそれぞれ自他動詞文をどのように理解しているか受容面の使用実態を明らかにし、今後の日本語教育への示唆を得ること

\* もちづき・まさみ, 埼玉大学人文社会科学部研究科博士後期課程, 日本アジア専攻

<sup>1</sup> 本稿では寺村(1982), 早津(1987, 1989), 中石(2020)がそれぞれ「相対自他動詞」「有対自他動詞」「対のある自他動詞」としたものを研究対象とするが、用語と自他対応における立場は早津に従うこととする。尚, 「入る/入れる」については, 中石(2020: 15)望月(2022)の論に従い有対自他動詞として研究対象に含めることとする。

を目指したものである。

## 2. 先行研究と補足調査

先行研究で指摘されている問題を 2-1 にまとめる。2-2 では望月(2022)が指摘した国内の日本語教育機関で行われている初級の日本語学習の傾向を概観した上で、2-2 を踏まえた補足調査について 2-3 に述べる。

### 2-1. 自他動詞学習の課題に関する先行研究

日本語学習者(以下、学習者)を対象に有対自他動詞の使用実態を調査した研究には、守屋(1994)、小林(1996)、中石(2005)、伊藤(2012 a)などがある。これらの先行研究からわかった有対自他動詞選択の困難点には下記のようなものがある(望月 2022)。

- (1)動詞によって差があるものの、学習者にとって有対自他動詞の中でも有対自動詞、特に人為的な行為の結果を示す有対自動詞の選択が困難だと考えられる。
- (2)形式を整えられても意味を考えられていない学習者が多い。
- (3)自他動詞選択の判断基準として、「参与者(主に助詞「が」の有無)」に着目している学習者が多い。
- (4)有対自他動詞の選択が困難な理由の1つとして、母語の干渉がある。

望月(2022)番号・下線は筆者による

これらの先行研究は(5)のような穴埋め文(守屋 1994、小林 1996)やビデオで示した状況(中石 2005、伊藤 2012 a)に学習者が適した自他動詞を入れられるかという調査によるものである。これらは自他動詞文を正しく産出できるか判断する研究で、自他動詞文を正しく受容できるか判断する研究は管見の限り見当たらない。

- (5)ドア [を／が] 風でボタンと [閉めた／閉まった]。

守屋(1994 : 153①)

学習者は他者から発せられた自他動詞の意味の違いをどのように受け取っているのだろうか。それは、母語話者と同じように受け取れているのだろうか。

中石(2005)では学習者が自動詞または他動詞のどちらか 1 つしか使わない「合理化」の傾向があると指摘している。それは学習者が有対自他動詞を使い分ける必要性を感じていないという可能性も一因と考えられないか。もしそうであるならば、意味の違いを知ることが自他動詞学習の動機づけにつながるのではないだろうか。

### 2-2. 自他動詞教育に関する先行研究

次に、日本語学習において学習者がどのように有対自他動詞教育を受けて

いるか概観する。

望月(2022)では、国内の日本語教育機関(2009年394校, 2019年486校を調査)の使用教材を調査し、初級で使われている教科書は少なくともこの10年間ほぼ変わらず、2019年時点でも全体の使用率の8割強を占める5種類の教科書<sup>2</sup>には自他動詞学習において(6)~(8)のような共通の傾向があることを指摘している。

- (6)自他動詞学習は、「自動詞+ている」などのアスペクト形式を学習する際の前提として行われているものがほとんどである<sup>3</sup>。
- (7)有対自他動詞を学習項目として扱っていない教科書にも、「~が(自動詞)/~を(他動詞)」と有対自他動詞を対にして並べた対応表が掲載されている。自他対応の学習の一助として対応表を使うように提案されているが、学習項目として扱うかどうかも含めてその使用法は教師の判断に委ねられている。
- (8)有対自他動詞の意味の違いについて説明する絵は、2枚1組の対応する絵で動作主の有無を示したものがほとんどで<sup>4</sup>、それ以外の意味を示した教科書は非常に少ない。

(8)の場合、たとえば「開く/開ける」を示した絵の場合、他動詞「開ける」を示した絵は人がドアや窓に手をかけているのに対し、「開く」は自動ドア<sup>5</sup>や風が吹いて窓が開く様子<sup>6</sup>が描かれている。1枚の絵で視点の違いを意識させた例(人形を動かす人に焦点を当てて「人形を動かす」、人形に焦点を当てて「人形が動く」など)や人を主語にして他者への影響の有無を示した例(「人を起こす」「人が起きる」)など、動作主の有無以外の例を載せたものは5種類の教科書で1種のみ<sup>7</sup>である。つまり、主要教科書で扱う自他動詞の使用法と意味は非常に限られていること、有対自他動詞の学習は教師の判断に委ねられている部分が大きいということがわかる。

### 2-3. 補足調査1—初級教科書以外、JLPT教材及び中級教科書での学習状況

補足として、教科書以外にオリジナル教材などを作成し、知識が補填されている可能性がないか、国内の日本語教育機関で働く講師(25校25名)にアンケート調査を行った。その結果、8割以上が学習機関(学校側)から指定された主教材(教科書)と副教材(付属の問題集)のみを使用して授業を行っているとの回答があり、教科書以外の知識を導入している可能性が低いことが示唆された。

さらに、望月(2022)で調査された5種類の初級教科書の中級版および日本語

<sup>2</sup> 『みんなの日本語(2012)』、『文化初級日本語改訂版(2013)』、『できる日本語(2011)』、『大地(2008)』、『学ぼう!日本語(2005)』の5種類。

<sup>3</sup> 5種類中4種類の教科書でその傾向がある。

<sup>4</sup> 「特徴的な3種類の教科書」を調査した中石(2002)も同様の傾向を指摘している。

<sup>5</sup> 『新文化初級日本語II』(2000):74

<sup>6</sup> 『学ぼう日本語初級1』(2005):169

<sup>7</sup> 『文化初級日本語改訂版』(2013)のみだった。

能力試験(以下, JLPT)対策教材(N3 対象 20 種)を対象にし, 初級以降の自他動詞教育についても調査を行った. その結果, 中級教科書ではアスペクト形式「～ている」についても一度学習する教科書はあるものの, 自他動詞の意味について学習する教科書はなかった. JLPT 教材では 20 種中 3 種に自他動詞について説明の記載があるが(表 1), 特に発展的な学習は見られなかった. (1)の「人為的な行為の結果を示す有対自動詞」は JLPT 教材の友松他(2012)にある「変化を起こす動作の結果(表 1)」に相当するが, 他の教材には特に説明の記載はなく, 少なくとも N3 習得レベルの学習過程にはほぼ含まれていないと考えられる. そして, 中級以降はあえて取り組まない限り自他動詞学習の機会はなく, 自然習得に任されている可能性が高い. 少なくとも N3 レベルを習得する段階では, 有対自他動詞はアスペクト形式の付属品のようなかたちで学習が行われ, そこではごく限られた意味だけ扱っているということが裏付けられる結果となった.

表 1 JLPT 教材における自他動詞の扱い

	自動詞	他動詞
行田 他 (2010)	自然に何か起こること, 状態を表す	人の動作を表す
清水 他 (2010)	①状態や様子を表すとき, ②自然に起きたことを表すとき, などに使います.	人の動作を表します.
友松 他 (2012)	変化を起こす動作の結果に注目して言う (注 1)	変化を起こす動作に注目して言う
	自然に起こることを表す	(対応する他動詞がない場合が多い)
	(対応する自動詞はない) (注 2)	人や物への働きかけがある動作を表す
	人や物への働きかけがない動作を表す	(対応する他動詞はない)(注 3)
注 1: 受身文で表すことができる. 注 2: 受身文でも表すことができる. 注 3: 使役文で表すことができる. *実際の表には英訳・中国語訳・例文あり		

### 3. 問題の所在

以上のような自他動詞学習を経た場合, 2つの疑問が生じる.

第一に, (9)(10)のように自動詞文・他動詞文の形式および前後の文脈に違いがなかった場合, 学習者はその 2 文に意味的な違いがあると考えのだろうか. 第二に, 仮に学習者が意味的な違いがあると考えたとして, どのような違いがあると考えのだろうか. そして, その認識は日本語母語話者(以下,

母語話者)の認識とどのぐらい差異があるのだろうか。

- (9) エアコン, つかない.
- (10) エアコン, つけない.

本論ではこれらの疑問を解消すべく, 産出された自他動詞文をどう読み分けるのか, 学習者と母語話者両者に調査を行うこととする。

#### 4. 調査の概要

母語話者および学習者は有対自他動詞文を読んだとき, どのように 2 つの文を読み分けるのか. 産出された自他動詞文を提示し, その意図を推測してもらうアンケート調査を行った。

##### 4-1. 調査対象

〔調査対象 1〕日本語母語話者(N1~N24).

...日本語教育関係者, 日本語教育を学んでいる学生を除く一般の高校生から 50 代の, 合計 24 名

〔調査対象 2〕日本語学習者(L1~L18).

...国内で日本語を学ぶ JLPT レベル N3 相当以上の日本語力を持つ留学生<sup>8</sup>. JLPT レベル N2 相当以上の学習者 15 名(L1~15)及び JLPT レベル N3 相当の中級後半クラス 3 名(L16 ~L18)の, 合計 18 名

##### 4-2. 調査内容

自他動詞を使った会話文の空欄に適した選択肢を入れて会話を完成させる選択問題(問題I-12 問)と, 空欄に適した文を記述する筆記問題(問題II-2 問)の計 16 問に調査対象全員が回答する(参考資料 1)<sup>9</sup>.

###### 4-2-1. 選択問題について

本調査を行う前に母語話者を対象に筆記問題による予備調査を行ったところ, 自他動詞どちらともとれる回答があったため, 選択式の問題を行うことにした. 使用する自他動詞は初級語彙の中から選び, 選択肢は予備調査の回答を参考に作成した.

###### 4-2-2. 筆記問題について

扱う語彙については, 国内の日本語教育機関で最も使用率の高い『みんなの日本語初級II本冊(2012)』(スリーエーネットワーク)を参考にした.

同教科書内ではじめて有対自他動詞の区別を扱うのは 29 課で, それ以降教

---

<sup>8</sup> 留学生の第一言語などの情報は参考資料 3 に記載.

<sup>9</sup> 事前に問題に使われている自他動詞のリストを見せ, リスト内のことばを「すべて知っている」と回答した人のみを調査対象とした.

科書内の新出動詞はほとんどが他動詞で自動詞は出てこない。29 課で学習した自動詞 13 語<sup>10</sup>の中から、教科書の最後 50 課までに最も登場回数が多い動詞が「やぶれる(7 回)」だった。数少ない自動詞の中でも頻出した「やぶれる」が記憶に残っている可能性が高いと判断したこと、また本来「やぶれる」は日常的に行う動作でもなければ機械任せの動作でもなく、行為の理由としても事象の原因としてもさまざまな例が考えられるのではないかと考えたことから、「手紙が破れる／手紙を破く」を筆記問題にすることとした<sup>11</sup>。

## 5. 結果と考察

### 5-1. 選択問題の回答結果について

母語話者 24 人中 23 人は、回答数が少ないことはあっても自他を逆にとらえる人はほとんどいなかった<sup>12</sup>(参考資料 2)。

一方、母語話者と全問同じ回答をした学習者は 18 人中 5 名に留まり、全員が正しく回答したのは 2-2 と 4-1, 4-2 のみだった。「暑いから(開ける)」「誰か来たから(開ける)」「眠くなったから(消す)」などは動作主の意志がわかりやすく、それに対する選択肢には「風で(開く)」や「停電で(消える)」などの自然現象が挙げられている。それぞれ他動詞、自動詞を選択する上でわかりやすいキーワードの存在が正答率の高かった理由として考えられる。

それに対し、1-2, 3-2 と 5 は誤回答が多かった。1-2 と 3-2 はそれぞれ b という回答が多かった(誤答率 56%)。3-2 は、「～と」の理解不足ともとれるが、「ネコが(エアコンを)こわした」「ボタンを押す」という他動詞文に誤誘導されてそれぞれ「エアコンをつけない」「動画をとめる」という他動詞文を選んだとも考えられる。5-1 については c を選択する学習者が多かった(誤答率 61%)。「気持ちよさそう」から他者の行為であることが読み取れず、「寝ていた」のは自分だと判断した可能性が考えられる。

母語話者は自動詞文と他動詞文を意味的に読み分けている一方で、母語話者と同じように読み分けている学習者は 3 割に満たない。ただ、学習者の誤答は自他動詞の意味を読み分けられないという以外にも、「～と」や様態の「～そう」などの前後の文型を読み間違えたことが影響しているとも考えられ、自他動詞の解釈によるものとは言えない可能性がある。では、選択肢の文型に影響を受けない場合はどうだろうか。次に、動詞以外は全く同じという自動詞文と他動詞文に対する筆記問題の結果を考察する。

---

<sup>10</sup> 「あく」「しまる」「つく」「きえる」「こわれる」「われる」「おれる」「やぶれる」「よごれる」「(ポケットが)つく」「はずれる」「止まる」「鍵がかかる」の 13 語。

<sup>11</sup> 選択問題を作成する際の予備調査で活用形による混乱が見られたため「やぶく」を採用したが、ここは形態的に対応する「やぶる」で調査すべきだっただろう。今後の課題としたい。

<sup>12</sup> たとえば 3-1 の回答として b または c のいずれかしか答えない人がいたものの、母語話者の中に a と回答する人はいなかった。



## 5-2. 筆記問題について

回答者の回答を内容別に分別してまとめたところ、母語話者と学習者には次のような違いが見られた。「手紙をやぶいちやった」理由を「行為を行った理由」として、また「手紙がやぶれちゃった」理由を「事象の原因」としてまとめた結果が表 2, 3 である。それぞれの表の内容について以下に考察する<sup>13</sup>。

## 5-2-1. 他動詞文「手紙、やぶいちやった」について

表 2 【他動詞】「手紙、やぶいちやった」行為を行った理由

	母語話者の 回答内容	(人   %)		学習者の 回答内容	(人   %)
話し手の 行為	話し手が不 要と判断	24   100	話し手の行為	話し手が 不要と判 断	11   61
				話し手の 不注意	
	話し手の不 注意		第三者の行為	2   11	
			わからない・不明	5   28	
合計		24   100	合計		18   100

手紙を破いた理由として全ての母語話者の回答に共通しているのは、破いた動作主は話し手だと想定していることである。意味的には(11)のように「話し手が不要と判断」している場合が大半(75%)で、その中には(13)のように手紙を読んだ際の感情が引き起こした行動の結果であることを示したものが多い。それ以外は(12)のように「話し手の不注意」によるものだと考えて書かれたものだったが<sup>14</sup>(25%)、いずれにしてもその動作主は話し手である。つまり、主語を省略し、前後に特別な文脈がない場合、母語話者は「動作主は話し手」と判断していることがわかる。

(11) いらなから。(N2 の回答)

(12) 封筒を開けるときに間違っ。(N21 の回答)

(13) 手紙を読んだら怒りがわいてきたから。(N9 の回答)

一方、学習者の中には省略された主語として第三者を想定しているものがあった(表 2)。(14)は動作主が「犬」、(15)は動作主が「赤ちゃん」である。前提となる文脈次第ではあり得る文だが、母語話者の判断とは異なる結果とな

<sup>13</sup> 学習者及び母語話者の全ての回答結果は稿末参考資料参照。

<sup>14</sup> 本来他動詞は意志的な動作であるのに対し、(12)のように意志に反した話し手の不注意が多く挙げられたのは「～ちゃった」に非意志的な要素が入っていたからだと考えられる。より自然な会話文と考えると「～ちゃった」を含めてしまったが余計な情報をそぎ落として調査すべきだった。今後の課題としたい。

った。

(14)見ていないとき犬がかじっちゃった。(L1の回答)

(15)赤ちゃんは手紙をやぶいちちゃった。(L15の回答) (筆者下線)

#### 5-2-2. 自動詞文「手紙、やぶれちゃった」について

表3【自動詞】「手紙、やぶれちゃった」事象の原因

母語話者(N1~N24)の回答内容		(人   %)	学習者(L1~L18)の回答内容	(人   %)
外部からの影響 (水・カバンの中身など)		12   50	外部からの影響 (雨・犬)	6   33.3
行為の結果	話し手の行為の結果	11   46	紙質	4   22.2
	第三者の行為の結果		話し手の行為の結果	2   11.1
紙質		1   4	わからない・不明	6   33.3
合計		24   100	合計	18   99.9

母語話者も学習者も手紙が破れた原因として水や雨などの外部からの影響を示す回答が最も多かった。

母語話者の回答で次に多かったのは、誰かの行為の結果としてとらえている文である(46%)。多くは(16) (17)のように話し手の行為の結果を表している(38%)。他動詞文にはない特徴としては(16)「～すぎた」(17)「無理に」というような行為の過失を意図する表現と合わせて書かれていることである。中には(18)のように第三者の行為の結果と指摘し、責任を追及するような文もあった(11%)。いずれにしても誰かの行為でありながら、話し手の意志に沿うものではないことが自動詞文では強調されている。

(16)消しゴムで強く擦りすぎたから。(N3の回答)

(17)のりが付いてた<sup>15</sup>のを無理に剥がしたから。(N5の回答)

(18)あいつがやぶったから。(N19の回答) (筆者下線)

一方、学習者は自動詞文で話し手の行為の結果を想定した人は非常に少なかった。多くの学習者がこのような自他動詞文と責任の所在との関係について学んでいない影響の表れとも考えられる。これについては次節で追跡調査を行う。

最も注目すべきは約3割の学習者からの(意味的な区別が)「わからない」という回答だろう。アンケートは、文中に使用した語の意味、自他動詞の形態的な区別を理解していることを確認した上で行われた。アンケートの最中に、JLPTのN1レベルを取得している学習者からも「2つの文(自動詞文と他動詞文)に意味的な違いがあるのか」との質問があった。有対自他動詞学習が形態面、統語面の学習に偏り意味の違いの学習が疎かになっている懸念に加え、

<sup>15</sup> 原文ママ。



N3 レベル以降においても自他それらの学習が補完されていない可能性を象徴した質問とも言えるのではないだろうか。

## 6. 自動詞文に関する追跡調査

### 6-1. 筆記問題における課題

今回の筆記問題では、自動詞の意味として話し手の行為の結果であると想定した人が少なかった。しかし、作文に書いたというだけで、その意味しか知らないという結論には導けない。そこで、自動詞文に「行為の結果」を示す読みがあるということを学習者が本当に理解していないのか追跡調査を行った。

### 6-2. 追跡調査の調査対象

日本語学習者(L19～L33)。…国内で日本語を学ぶ JLPT レベルN3 程度の日本語力を持つ留学生 15名(国籍：アメリカ 4名，ドイツ 3名，モンゴル・台湾各 2名，ウズベキスタン・中国・スペイン・ミャンマー各 1名)。

### 6-3. 調査内容

空欄に有対自他動詞の自他動詞いずれかを入れて文を完成させる選択問題 15 問。問題に使われていることばの意味はすべて理解していることを確認したうえで調査対象全員が回答した。(参考資料 5)

### 6-4. 選択問題について

使用する有対自他動詞は初級語彙の中から 5 組(開く／開ける，つく／つける，こわれる／こわす，やぶれる／やぶる，おきる／おこす)の動詞を選んで作成した。選択肢は 1 組につき 3～4 つの文を用意し，それぞれの原因・理由から判断して自他動詞のいずれかを選ぶかたちで設定した。文は(i)行為の結果の状態(ii)自然的，自発的な影響による状態(iii)話し手の意図的な行為を表したもので，(i)(ii)は自動詞，(iii)は他動詞を選択することを想定した。どちらを選んでいいかわからない場合は「？」，どちらも誤用と考えた場合は×，どちらも使えろと考えた場合は 2 つとも○とするように指示した<sup>16</sup>。

### 6-5. 調査結果

調査の結果，想定通りの回答が多かったのは自然的，自発的な影響を示した(ii)について自動詞を選択する問題で，ほとんどの設問について 8 割，平均しても 76%の学習者が想定通り自動詞を選択した。それに対し誰かの行為の結果を示した(i)について自動詞を選択した人は(ii)の約半数で，全体の 4 割という結果となった。選んだ根拠について聞き取り調査などを行っていないの

---

<sup>16</sup> 実際の回答用紙は(i)～(iii)の設問をランダムに並べ替えたものを配布した(参考資料 4)。

で推測の域を出ないが、(i)(ii)の回答数の差は大きく、人の行為が絡んだ文章は自他選択が難しく、中でも「行為の結果」を示す自動詞文は学習者にとって中級になっても理解しづらいものであるということは裏付けられたと考えられる。

## 7. まとめと今後の課題

本論では、学習者が有対自他動詞文に意味的な違いがあるか、あると考えた場合どのような違いがあるか、その認識は日本語母語話者(以下、母語話者)の認識とどのぐらい差異があるか、という3点を調査した。

調査の結果、有対自他動詞の学習を終えたはずの中級以上の学習者でも、その読み取り方は不安定で母語話者のそれとは異なることがわかった。母語話者のような読み解き方を学習者が学習する機会があったらどうか。母語話者との差異が生まれた原因を日本語教育の面からまとめる。

### 7-1. 自他動詞学習の「傾き」

作文問題では、母語話者は主語を省略した場合、前後に特別な文脈がなければ他動詞文の動作主は話し手であると判断する傾向があることが明らかになった。一方の学習者は「誰かの動作の結果」という認識であり、動作主が話し手とは限定していない。これまで他動詞は「人の動作」を表す(表 1)と学習していることからこれは必然と言えよう。

自動詞文について、母語話者の半数は過失の結果として捉えている。その中には第三者の行為の結果と捉えて責任追及する文もあったのに対し、学習者は自然現象と捉える文が多数を占めた。これも自動詞は「自然に起こること」と学習してきたことが一因と考えられる。あるいはアスペクト形式「～ている」の学習に偏り、そもそも自他の意味的な違いについての学習が疎かになっている可能性も考えられる。

岩田(2011)は多くの教科書に共通している傾向を「傾き」と呼び、初級日本語教材には文法項目が共通しているだけでなく、その取り扱い方にも「傾き」があるとしている。自他動詞の違いを異なるアプローチから提示している教科書がないわけではないが、教科書の採択にも一定の傾向があり、多くの機関で採択されている教科書での有対自他動詞の扱い方には同様の傾向がある。有対自他動詞の扱いにも「傾き」があり、今回の調査結果を鑑みる限りその妥当性については再考の余地があると言えるだろう。

### 7-2. フルセンテンス学習のデメリット

自他動詞の学習が形式重視で意味を考えられていないという課題は先行研究でも言及されているが、形式の違いにとらわれて意味的な違いを認識されていない可能性が今回の結果により裏付けられた。

文型シラバスの教科書は、文型を意識するがゆえに、基本的にはフルセンテンス(主語と述語から構成される完全な文章)で書かれている。一方、日常会話はフルセンテンスでやりとりされることはむしろ少ない。増田(2014)は受身文をテーマに述語一語文の学習の必要性を論じていたが、自他動詞にお

いても同様に、自動詞もしくは他動詞一語でのやりとりを学習する必要があるだろう。自他動詞の意味的な使い分けを知ることが中石(2005)の言う「合理化」の解消につながるのではないだろうか。

### 7-3. 今後の課題

一般の母語話者が共に読み分けているものの、今回のような有対自他動詞の区別は辞書では知り得ない。翻訳機能や検索機能が進んだ今、「学習者が自力でなかなか知り得ない学習ポイント(劉 2016)」の教授方法について考えることが今後の日本語教育に必要な作業だろう。そして、それは上級以上の学習者の自然習得に頼るだけでなく、初中級から段階的に取り入れる試みも必要だと思われる。形態重視で意味を注視していないことが、自他動詞学習が進まない一因と考えられるからだ。

自他動詞の何をどこまでどのレベルの授業で扱うかという習得順序はいまだに不明瞭で教師に委ねられている部分が多い。伊藤(2012b)は自他動詞の習得段階を5つに分けて示している。庵(2017)は自他動詞の習得順序を考察し、定義に関わるものから導入するために、動作主の有無を学習後、責任の所在の有無を学習するという流れを提案している。自他動詞は形態的に類似しており、学習者が形態面でつまずいてしまうことが意味の違いに進めない一因とも考えられる。習得順序の一案としてさらに加えるとすれば、自他動詞の産出の前に受容から入るのも1つの方法だろう。まずは読解や聴解で自他の違いを読み聞きし、その違いを体感し必要性を理解してから産出に進むという順序も考えられるのではないだろうか。教科書学習は手段であって目的ではない。自他動詞で何ができるようになれば学習者の日本語学習が円滑に進み、学習者の日本語運用に役立つのか、学習目的を明確化した上で今一度習得順序について考えていきたい。

今回は、選択問題と作文問題を用い、有対自他動詞文への返答として適切な文を考える調査を行った。選択問題では、自他動詞以外の文型の影響を受けている可能性があり、作文問題では、作文に書いたとは言えその意味しか知らないという結論には導けない。追跡調査で学習者が自他の区別に一定の混乱があることが裏付けられたが、その理由を調査するには至らなかった。調査の手法は今後の課題としたい。

また、自他動詞教育に関する既成概念のない母語話者の声を聞くために、今回はあえて日本語教育に携わっていない母語話者を調査対象とした。より客観的に教科書と現実の乖離を発見するという目的ではコーパスによる調査が一般的だが(中俣 2016)、今回のような比較調査をコーパスで行うことは難しい。今回の調査はコーパスにない日本語から母語話者の特徴を知るといった試みでもあった。ただ、調査時期がコロナ禍で国内の学習者が激減した時期と重なり、データ数が少ないことは課題の1つである。このような調査は学習者と人数を合わせてより規模を拡大し精査する必要があるだろう。

以上の課題を踏まえて調査を続けるとともに、母語話者と学習者の乖離が学習によって埋まるものなのか、どんな学習なら埋められる可能性があるのか、教える側の宿題として考えていきたい。

## 参考資料 1<sup>17</sup> アンケートに使用した問題 I・II

問題I( )に合う文をえらんで☑してください。合う答えがなかったら「ぜんぶ×」に☑を、文の意味がわからなかったら「わからない」に☑をしてください。

### 1【つく・つける】

1-1)A:エアコンがつかないよ。

B:えっ、どうして？

A:( )。

1-2)A:今日はエアコンをつけないよ。

B:えっ、どうして？

A:( )。

a)今日は暑くないから。

b)きのう、ネコがこわしちゃったんだ。

c)どうしてかわからないけど...ONのボタンを押してもだめだった。

d)ぜんぶ×。

e)わからない。

### 2【あく・あける】

2-1)A:今、まどが開きました。

B:どうして？

A:( )。

2-2)A:今、まどを開けました。

B:どうして？

A:( )。

a)へやの中が暑いから。

b)風で。(風-かぜ wind)

c)だれかがノック(knock)したから

d)ぜんぶ×。

e)わからない。

### 3【とまる・とめる】

3-1)( ), 動画(どうが movie)が止まった。

3-2)( ), 動画(どうが movie)を止めた

a)これから勉強しようと思ったので

b)ボタンを押すと

c)Wi-Fiの問題で

d)ぜんぶ×。

e)わからない。

---

<sup>17</sup> 実際は Google Form で作成したものを教室内(もしくはオンライン授業内)で送り、回答してもらった。

4【きえる・けす】

4-1) ( ) 電気がきえた。

4-2) ( ) 電気をけした。

- a) 停電(ていでん power outage)で
- b) 出かけるので
- c) ねむくなったので
- d) ぜんぶ×.
- e) わからない.

5【起きる・起こす】

5-1) A: どうして起きなかったんですか。

B: ( )。

5-2) A: どうして起こさなかったんですか。

B: ( )。

- a) アラームが聞こえなかったから....
- b) 気持ちよさそうに寝ていたから....
- c) ベッドの中が気持ちよかったから....
- d) ぜんぶ×.
- e) わからない.

6【はいる・いれる】

6-1) A: へやに はいりますか。

B: はい. ( )。

6-2) A: へやに いれますか。

B: はい. ( )。

- a) 外に置くと、きたなくなってしまうから
- b) さむいですから、中でコーヒーを飲みましょう。
- c) どちらも×.
- d) わからない.

問題II( )に合う文を書いてください。

日本語がわからなかったら、第一言語(だいいちげんご First Language)で書いてもいいです。

1) A: 手紙, やぶれちゃった。

B: えっ, どうして?

A: ( )。

2) A: 手紙, やぶいちゃった。

B: えっ, どうして?

A: ( )。

参考資料2 アンケートに使用した問題I(選択問題)の回答

太字が正答. 網かけ部分が誤答.

自動詞文

1 【つく・つける】		母語話者 (人)	学習者 (人)
1-1	<b>bとc</b>	9	2
	<b>b</b>	5	3
	<b>c</b>	10	8
	a	0	4
	全部×	0	1
誤答率			28%

他動詞文

1 【つく・つける】		母語話者 (人)	学習者 (人)
1-2	<b>a</b>	23	8
	<b>aとc</b>	0	1
	b	0	6
	<b>bとc</b>	0	2
	c	1	0
	全部×	0	1
誤答率			56%

2 【あく・あける】		母語話者 (人)	学習者 (人)
2-1	<b>b</b>	23	17
	<b>bとc</b>	0	0
	c	0	1
誤答率			5%

2 【あく・あける】		母語話者 (人)	学習者 (人)
2-2	<b>a</b>	9	8
	<b>aとc</b>	11	6
	c	4	4
誤答率			0%

3 【とまる・とめる】		母語話者 (人)	学習者 (人)
3-1	<b>bとc</b>	7	4
	<b>b</b>	1	0
	<b>c</b>	16	13
	a	0	1
誤答率			5%

3 【とまる・とめる】		母語話者 (人)	学習者 (人)
3-2	<b>a</b>	23	8
	<b>aとb</b>	1	3
	b	0	7
誤答率			56%



4 【きえる・けす】		母語話者 (人)	学習者 (人)
4-1	a	24	18
誤答率			0%

4 【きえる・けす】		母語話者 (人)	学習者 (人)
4-2	b	13	11
	bとc	11	7
誤答率			0%

5 【おきる・おこす】		母語話者 (人)	学習者 (人)
5-1	b	22	7
	aとb	2	0
	a	0	8
	c	0	1
	全部×	0	1
わからない		0	1
誤答率			61%

5 【おきる・おこす】		母語話者 (人)	学習者 (人)
5-2	c	22	4
	aとc	2	4
	a	0	3
	b	0	5
	bとc	0	1
誤答率			33%

6 【はいる・いれる】		母語話者 (人)	学習者 (人)
6-1	a	22	15
	b	2	1
	全部×	0	2
誤答率			17%

6 【はいる・いれる】		母語話者 (人)	学習者 (人)
6-2	b	23	17
	a	1	1
誤答率			5%

参考資料 3 学習者の情報と問題Ⅱ (作文問題) の回答<sup>18</sup>

	1) 第一言語	2) 初級で使ったことがある教科書	3) 学習歴	4) JLPT
L1	タガログ語	できる日本語	0～6か月	ない
L2	インドネシア語	みんなの日本語, できる日本語	2年～5年	N2
L3	中国語	みんなの日本語	1年～1年半	N1
L4	中国語	文化初級日本語/新文化初級日本語	2年～5年	ない
L5	中国語	みんなの日本語, 学ぼう!日本語	5年以上	N2
L6	中国語	みんなの日本語, 学ぼう!日本語	1年半～2年	N2
L7	中国語・英語	みんなの日本語, 適時適所日本語表現文型と日本語の重要表現文型	2年～5年	N3
L8	中国語	げんき	5年以上	N1
L9	中国語	標準日本語, 新編日本語	5年以上	N1
L10	中国語	みんなの日本語	5年以上	ない
L11	中国語	みんなの日本語	5年以上	N1
L12	中国語	みんなの日本語	2年～5年	N2
L13	中国語	説日語学日語初級	5年以上	N1
L14	中国語	日本語読本	5年以上	N4
L15	中国語	忘れました	5年以上	N1
L16	タイ語	みんなの日本語・文化初級日本語・学ぼう日本語	1年～1年半	ない
L17	モンゴル語	みんなの日本語・できる日本語	2年～5年	N3
L18	英語	げんき	1年～1年半	ない

<sup>18</sup> 学習者の誤用・誤記はそのまま記載。

	1)A:手紙, やぶいちゃった. B:えっどうして? A:( ).	行為を行った理由
L1	見ていない時犬がかじっちゃった	第三者の行為
L2	内容が恥ずかしいから.	話し手が不要と判断
L3	手紙を破きます.	?
L4	手紙を破いちゃった.	?
L5	紙質が薄いからです	話し手の不注意?
L6	あめのせい	外部からの影響?
L7	本カレのですから, 読まない	話し手が不要と判断
L8	不注意でした	話し手の不注意
L9	意地悪な言葉ばかりだから	話し手が不要と判断
L10	そんな内容を見て, ついに手紙を破きました.	話し手が不要と判断
L11	いらぬ紙だと思いましたから	話し手が不要と判断
L12	消しゴムを強すぎに使ったから	話し手の不注意
L13	強い引っ張られだから.	第三者の行為? 外部からの影響?
L14	不注意で, 手紙を破きました.	話し手の不注意
L15	赤ちゃんは手紙をやぶいちゃった.	第三者の行為
L16	おこって.	話し手が不要と判断
L17	不要とまちがえて.	話し手の不注意
L18	きをつけてなかった.	話し手の不注意

	2)A:手紙, やぶれちゃった. B:えっどうして?( ). A:( ).	事象の原因
L1	開ける時, 手紙も一緒に切っちゃって	話し手の行為の結果
L2	水にぬれちゃったから.	外部からの影響(雨)
L3	手紙が破れます.	?
L4	手紙が破れちゃった.	?
L5	紙質がわるいので, 破れやすい	紙質
L6	手で破れた	?
L7	雨だったかもしれない	外部からの影響(雨)
L8	素材は絶えない	紙質
L9	犬に噛まれた.	外部からの影響(犬)
L10	水で破れました.	外部からの影響(雨)
L11	雨で濡れてしまいましたから	外部からの影響(雨)
L12	洗濯機に入りたから	話し手の行為の結果
L13	分かりません.	—
L14	薄くて, 古過ぎて.	紙質
L15	雨に濡れました.	外部からの影響(雨)
L16	わかりません	—
L17	わかりません	—
L18	紙がよわいから.	紙質

参考資料4 母語話者の情報と問題Ⅱの回答<sup>19</sup>

	年代	1)A:手紙, やぶいちゃった. B:どうして? A:( ).	行為を行った理由
N1	50代	嫌な内容だったから.	話し手が不要と判断
N2	10代	いらぬから	話し手が不要と判断
N3	10代	もう, いらぬ紙だったから.	話し手が不要と判断
N4	40代	嫌なことが書いてあったから	話し手が不要と判断
N5	50代	ムカついたから.	話し手が不要と判断
N6	40代	書いた絵を失敗したから	話し手が不要と判断
N7	40代	封筒を開ける時に, 一緒にやぶれてしまいました	話し手の不注意
N8	50代	間違えてやぶいちゃった	話し手の不注意
N9	40代	手紙を読んだら怒りがわいてきたから	話し手が不要と判断
N10	10代	鉛筆の跡が気になって消しゴムをかけて.	話し手の不注意
N11	30代	いらぬから.	話し手が不要と判断
N12	40代	不要な手紙だったから	話し手が不要と判断
N13	30代	頭にきたから.	話し手が不要と判断
N14	40代	とても嫌なことが書いてあったから.	話し手が不要と判断
N15	40代	むかついたから	話し手が不要と判断
N16	10代	嫌なことが書かれてたから	話し手が不要と判断
N17	40代	急いでいたから	話し手の不注意
N18	40代	もう捨てていいものだから.	話し手が不要と判断
N19	20代	ムカついたから	話し手が不要と判断
N20	40代	必要ないから	話し手が不要と判断
N21	40代	封筒を開ける時に間違っ	話し手の不注意
N22	20代	必要ないから	話し手が不要と判断
N23	50代	間違えちゃった	話し手の不注意
N24	50代	もう読みたくないから...	話し手が不要と判断

<sup>19</sup>母語話者の誤用・誤記はそのまま記載.

	2) A:手紙, やぶれちゃった. B:どうして? A:( ).	事象の原因
N1	紙薄かった.	紙質
N2	雨でふやけてたから	外部からの影響(雨)
N3	消しゴムで強く擦りすぎたから.	話し手の行為の結果
N4	濡れて弱くなってたから	外部からの影響(雨)
N5	のりが付いてたのを無理に剥がしたから.	話し手の行為の結果
N6	他の捨てる手紙と一緒にやぶっとしまいました	話し手の行為の結果
N7	ペットがかじってしまいました	第三者の行為の結果
N8	カバンの中がグチャグチャで	外部からの影響(カバンの中身)
N9	雨で濡れたから	外部からの影響(雨)
N10	雨で濡れちゃったから	外部からの影響(雨)
N11	間違えて破いちゃった	話し手の行為の結果
N12	雨に濡れてしななだったから	外部からの影響(雨)
N13	カバンから出した時に無理に出したから.	話し手の行為の結果
N14	雨で濡れてしまったから.	外部からの影響(雨)
N15	コーヒーこぼした	話し手の行為の結果
N16	水に濡れてふやけたから	外部からの影響(水)
N17	強く引っ張ってしまったから	話し手の行為の結果
N18	水に濡れてしまったから.	外部からの影響(水)
N19	あいつがやぶったから	第三者の行為の結果
N20	水でぬれたから	外部からの影響(水)
N21	少し濡れてたみたいだったから	外部からの影響(水分)
N22	水で濡れてしまったから.	外部からの影響(水)
N23	コーヒーをこぼしてしまったの	話し手の行為の結果
N24	水たまりに落としちゃった...	話し手の行為の結果



## 参考資料 5 追跡調査結果

	A (自動詞)? B(他動詞)? (i)A 自動詞(行為の結果) (ii)A 自動詞(自然) (iii)B 他動詞	を想定した設問	想定
1	(i)彼が強く押したので(ドアが 開きました／ドアを開けました／?)		A
	(ii)風 <sup>カゼ</sup> で(ドアが 開 <sup>ア</sup> きました／ドアを開 <sup>ア</sup> けました／?) *風 <sup>カゼ</sup> wind		A
	(iii)暑 <sup>アツ</sup> いので(ドアが 開 <sup>ア</sup> きました／ドアを開 <sup>ア</sup> けました／?)		B
2	(i)スイッチを入 <sup>イ</sup> れたので(エアコンがつかました／エアコンをつけました／?)		A
	(ii)タイマーをセッ <sup>イ</sup> トした時間になったので(エアコンがつかました／エアコンをつけました／?)		A
	(iii)暑 <sup>アツ</sup> いので(エアコンがつかました／エアコンをつけました／?)		B
3	(i)トイレに落 <sup>オ</sup> としたので(時計 <sup>トケイ</sup> がこわれ <sup>マ</sup> ました／時計 <sup>トケイ</sup> をこわ <sup>マ</sup> しました／?)		A
	(ii)雨 <sup>アメ</sup> でぬ <sup>レ</sup> れて(時計 <sup>トケイ</sup> がこわれ <sup>マ</sup> ました／時計 <sup>トケイ</sup> をこわ <sup>マ</sup> しました／?)		A
	(iii)時間を見たくないので(時計 <sup>トケイ</sup> がこわれ <sup>マ</sup> ました／時計 <sup>トケイ</sup> をこわ <sup>マ</sup> しました／?)		B
4	(i)毎日使 <sup>マイニチツカ</sup> ったので(紙袋 <sup>カミブクロ</sup> がやぶ <sup>レ</sup> れました／紙袋をやぶ <sup>リ</sup> りました／?)		A
	(ii)たくさん物を入 <sup>モノ</sup> れたので(紙袋 <sup>カミブクロ</sup> がやぶ <sup>レ</sup> れました／紙袋をやぶ <sup>リ</sup> りました／?)		A
	(iii)もう いら <sup>カミ</sup> ないので(紙袋 <sup>カミブクロ</sup> がやぶ <sup>レ</sup> れました／紙袋をやぶ <sup>リ</sup> りました／?)		B
5	(i)お母 <sup>カア</sup> さんが呼 <sup>ヨ</sup> んだので(子どもが起 <sup>オ</sup> きました．／子どもを 起 <sup>オ</sup> こしました／?)		A
	(ii)雷 <sup>カミナリ</sup> がう <sup>モ</sup> るさくて(子どもが起 <sup>オ</sup> きました．／子どもを 起 <sup>オ</sup> こしました／?)		A
	(iii)朝 <sup>アサ</sup> になっても寝 <sup>ネ</sup> ているので、(子どもが起 <sup>オ</sup> きました．／子どもを起 <sup>オ</sup> こしました／?)		B

設問	想定	L 1	L 2	L 3	L 4	L 5	L 6	L 7	L 8	L 9	L 10	L 11	L 12	L 13	L 14	L 15	想定通り	正答率	
1	(i)	A	A	B	A	B	A	A	B	B	B	B	A	B	A	A	5人	33%	
	(ii)	A	A	A	A	A	B	A	A	A	A	×	B	A	A	A	12	80%	
	(iii)	B	B	B	B	B	A	B	B	A	A	B	A	B	B	B	10	67%	
2	(i)	A	B	B	A	B	?	B	B	B	A	B	A	A	B	A	B	4	27%
	(ii)	A	A	A	B	A	B	A	A	A	B	A	B	B	A	B	A	9	60%
	(iii)	B	A	B	B	B	A	A	B	B	A	B	A	A	B	B	B	9	60%
3	(i)	A	A	A	B	B	A	A	A	A	B	B	A	A	A	?	A	9	60%
	(ii)	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	B	B	A	A	A	12	80%
	(iii)	B	B	B	A	B	A	B	A	A	B	B	×	?	B	A	?	7	47%
4	(i)	A	A	B	B	B	A	A	A	A	B	B	B	A	A	B	6	40%	
4	(i)	A	A	A	A	B	A	A	A	B	A	B	B	B	A	?	A	8	53%
	(ii)	A	A	A	A	A	A	A	A	×	B	A	A	A	A	B	A	12	80%
	(iii)	B	B	B	B	B	A	B	B	A	A	B	A	?	B	B	B	10	67%
5	(i)	A	A	B	A	B	A	A	B	B	A	B	B	B	B	B	B	4	27%
	(ii)	A	A	A	A	A	B	A	A	A	B	A	B	A	A	A	A	12	80%
	(iii)	B	B	B	B	A	A	B	A	A	A	A	A	?	B	B	B	7	47%

A(i) 自動詞(行為の結果)	40%
B(iii) 他動詞	57%
A(ii) 自動詞(自然)	76%

### 参考文献

- 庵功雄(2001)『新しい日本語学入門』スリーエーネットワーク
- 庵功雄(2017)『『産出のための文法』から見たボイス表現 —受身, 使役, 自他  
の対応を中心に—』「2017年度日本語教育学会秋季大会予稿集」pp. 30-32
- 伊藤秀明(2012a)「相対動詞・他動詞選択判断の要因—中国人大学生の場合—」  
『国際交流基金日本語教育紀要』8: pp. 7-21 国際交流基金
- 伊藤秀明(2012b)「学習者は「対のある自他動詞」をどのように使っているか  
—中国人日本語学習者の中級から超級に注目して—」『国際日本研究  
International and advanced Japanese studies』4pp. 43-52
- 岩田一成(2011)「数量表現における初級教材の「傾き」と使用実態」庵功  
雄・森篤嗣編『日本語教育文法のための多様なアプローチ』ひつじ書房 pp.  
101-122
- 小林典子(1996)「相対自動詞による結果・状態の表現: 日本語学習の習得状  
況」『文藝言語研究. 言語篇』29: pp. 41-56 筑波大学文藝言語学系
- 寺村秀夫(1982)「第3章 5. 動詞の自他—語彙的態の類型」『日本語のシntax  
クスと意味 第1巻』くろしお出版 pp. 303-317
- 中石ゆう子(2002)「有対自動詞と有対他動詞の用法とその指導について—初  
級教科書の分析の結果から—」『広島大学大学院教育研究科紀要』第二部第  
51号広島大学大学院 pp. 385-392
- 中石ゆう子(2005)「対のある自動詞・他動詞の第二言語習得研究—『つく-つけ  
る』, 『きまる-きめる』, 『かわる-かえる』の使用状況をもとに—」『日本語  
教育』124: pp. 23-32 日本語教育学会
- 中石ゆう子(2020)『日本語の対のある自動詞・他動詞に関する第二言語習得  
研究』日中言語文化出版社
- 中俣尚己(2016)「コーパスから見る日本語教科書」吉岡秀幸・本田弘之(編)  
『日本語教材研究の視点—新しい教材研究論の確立をめざして』くろしお  
出版 pp. 92-113
- 西光義弘(2010)「第8章 他動性は連続体か?」西光義弘・プラシャント・パ  
ルデン編『自動詞・他動詞の対照』くろしお出版 pp. 211-234
- 増田真理子(2014)「教室における日本語の受け身の教育—試みの一つとして」  
『2014年度日本語教育学会春季大会予稿集』pp. 30-32
- 望月雅美(2022)「初級日本語教科書における有対自他動詞の提示方法とその  
変遷 —国内使用教科書の実態調査より—」『埼玉大学日本語教育センター  
紀要』
- 守屋三千代(1994)「日本語の自動詞・他動詞の選択条件—習得状況の分析を  
参考に」『講座日本語教育』29, pp. 151-165 早稲田大学日本語研究教育セ  
ンター
- 早津恵美子(1987)「対応する他動詞のある自動詞の意味的・統語的特徴」『京  
都大学言語学研究』6 京都大学言語学研究会 pp. 79-109
- 早津恵美子(1989)「有対他動詞と無対他動詞の違いについて—意味的な特徴  
を中心に」『言語研究』95 日本言語学会編 pp. 231-256
- 山内博之(2009)『プロフィシエンシーから見た日本語教育文法』ひつじ書房
- 劉志偉(2016)「日本語学習者から見た語彙シラバス」森篤嗣(編)『ニーズを踏

まえた語彙シラバス』 pp. 95-114 くろしお出版

### 日本語教材一覧

- ABK 財団法人 アジア学生文化協会『TRY！日本語能力試験 N3 文法から伸ばす日本語』(2013)アスク出版
- インターカルト日本語学校(2019)『一発合格！日本語能力試験 N3 完全攻略テキスト&実践問題集』ナツメ社
- 安藤栄里子他(2010)『耳から覚える日本語能力試験文法トレーニング N3』アルク
- 安藤栄里子他(2021)『耳から覚える語彙トレーニング N3 改訂版』アルク
- 郭冰雁他(2016)『文法必携バイブル N3 完全制覇文型集』V2 ソリューション
- 行田悦子他(2010)『日本語能力試験 N2/N3 語彙対策標準テキスト』秀和システム
- 佐々木仁子他『日本語総まとめ N3 語彙』(2010)アスク出版
- 山田 光子他(2019)『日本語能力試験対策 N3 文法・語彙・漢字』三修社
- 松本節子(2010)『実力アップ！日本語能力試験 文のルール』ユニコム
- 新 JLPT 研究会『日本語能力試験 N3 模試と対策』(2010)アスク出版
- 森田智子(2013)『ゼット合格！日本語能力試験総合テキスト N3』Jリサーチ
- 水谷信子他(2018)『日本語 N3 文法・読解まるごとマスター』Jリサーチ
- 清水知子他(2010)『日本語能力試験問題集 N3 文法スピードマスター』Jリサーチ
- 西隈俊哉他(2010)『パターン別徹底ドリル日本語能力試験 N3』アルク
- 中島智子他(2010)『日本語能力試験問題集 N3 語彙スピードマスター』Jリサーチ
- 日本語能力試験問題研究会(2012)『日本語能力試験直前対策 N3 文字・語彙・文法』国書刊行会
- 友松悦子他(2012)『新完全マスター文法日本語能力試験 N3』(2012)スリーエーネットワーク
- 齋藤美幸他(2016)『きらり☆日本語 N3 語彙』凡人社
- 齋藤明子他『JLPT 文法ポイント&プラクティス』(2021)スリーエーネットワーク
- スリーエーネットワーク(2012)『みんなの日本語初級II本冊』スリーエーネットワーク
- スリーエーネットワーク(2008)『みんなの日本語 中級I本冊』スリーエーネットワーク
- できる日本語教材開発プロジェクト(2013)『できる日本語 中級 本冊』アルク
- 山崎佳子他(2008)『日本語初級2大地』スリーエーネットワーク
- 日本語教育教材開発委員会(2005)『学ぼう！日本語初級1』専門教育出版
- 日本語教育教材開発委員会(2007)『学ぼう！日本語中級』専門教育出版
- 文化外国語専門学校(1994)『文化中級日本語I』凡人社
- 文化外国語専門学校(2013)『文化初級日本語I, IIテキスト改訂版 教師用指導例集』凡人社

## **How Learners of Japanese Accept Intransitive and Transitive Verbs**

### **A comparative survey of native speakers and learners**

**MOCHIZUKI Masami**

In this study, I conducted a comparative survey of native speakers and learners to investigate how Japanese learners interpreted intransitive and transitive verb sentences.

As a result, even though the conversational sentences were at the beginner level, only 30% of the learners (JLPT-N3 level and above) read them the same way as the native speakers. When they omitted the subject, the native speakers tended to judge that the agent of the transitive verb sentence was the speaker unless there was a particular context before or after the sentence. However, Japanese learners did not exhibit this tendency. Half of the native speakers considered an intransitive verb sentence to be the result of negligence. Some perceived such sentences to be the result of a third party's actions. On the other hand, many learners regarded intransitive verb sentences to be the result of an event that occurred naturally.

The process of learning Japanese might have influenced the aforementioned differences. The study findings hold implications for the future of Japanese language education, such as the need to reconsider methods for learning the meanings of intransitive and transitive verbs and teaching based on the reception, rather than production, of intransitive and transitive verbs.

**Keywords:** intransitive verbs, transitive verbs, Japanese textbooks, vocabulary acceptance and production